

令和4年度 第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和4年7月13日(水) 15:30～
開催場所	よこはま動物園ズーラシア特別会議室
出席者	(委員) 小宮輝之委員、佐渡友陽一委員、関清美委員、藤崎晴彦委員、間曾さちこ委員
議 題	1 令和4年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案について 2 その他
<p><b>1 令和4年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・了承</li> </ul> <p><b>2 その他</b></p> <p>(野毛山動物園、よこはま動物園ズーラシア視察の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の1つの案として、2つの園を視察する際には午前中に集合して野毛山動物園を見て動物園のレストランを利用し、そして午後ズーラシアを視察するなどの方法を検討してみるのもよい。</li> <li>・新型コロナウイルスが落ちつけば色々な方法が考えられそうだ。</li> <li>・ズーラシアのゾウの給餌器を見て、日本でもいよいよこのようなものを作りはじめたと感じた。さらに開発から関わっていると伺い大変印象的だった。財源となったアニマルペアレントは安定的な収入と捉えられると思うが、今は全体でどのくらい集まっているのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→毎年400万円以上である。</li> </ul> </li> <li>・翌年度に利用するのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→当該年度中に利用している。3園で使える金額が確定するのは遅い時期になるため、秋頃より相談しつつ準備をすすめている。</li> <li>→(指定管理者) 令和3年度の例ではズーラシアでは約300万円のうち200万円位をゾウのために使用した。また、いただいた支援金の使用用途については報告書を作成している。</li> </ul> </li> <li>・このように外部資金が使われ、様々な改良に役立つことは大変良いことだと思う。しかし同時に今後のことを考えると、ある程度まとまったプロジェクトを実現するためには、何年か分を貯めて使える仕組みが必要になるだろう。現在は、そのような仕組みは存在するのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→現在は、ない。</li> </ul> </li> <li>・海外の動物園では一般的になっているが、単発のクラウドファンディングでは達成できない金額の整備等を目的とするために、複数年のファンドレイジングによってまとまった金額を工面して再整備など大掛かりな工事を行っている。現在そのような大掛かりな積み立ての仕組みがないので、今後の課題になる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→指定管理者制度の中で規模の大きな修繕は市が実施するという前提があり、そのようなケースが発生した場合どちらがどこまで実施するかという課題が生じる可能性が考えられる。円滑にすすめるためにも全体で相談し整理していく必要がある。また、財団法人としての会計ルールも精査する必要がある。</li> <li>→動物購入費については、市のふるさと納税制度を活用した基金を横浜市が持っており、必要になったときにいつでも使える財源がある。そのため建設関係が課題となる。</li> </ul> </li> </ul>	

- ・行政の単年度決算主義と年度をまたいだプロジェクトの調整は、複雑になればなるほど難しいと思う。
- ・他の行政機関で大きな建築物を作ったことがあったが、仕様書等で色々と取り決めはあったものの1年単位で決算書を作成していた。その頃と仕組みはいまだに変わっていないのだと感じ、やはり大きいものを購入することは難しいと感じた。
  - 学術的な研究費を充てる備品購入等の実績はあるが、加工物や建築物に使えるお金としては様々な経験をされている方に教えていただきながら、検討していきたいと思う。
- ・今回の課題提起としては、寄附をどのように使っていくかということにある。これまで日本の動物園では具体的な品物を提示して寄附を募ることを行っていなかったが、最近はクラウドファンディングを取り入れるなど変化している。しかし単年度で完結する範囲でしか実施できていないのが実情である。寄附の性質を持つお金が単年度でしか使えないのはハードルが高い。日本と海外の動物園の大きな違いは、単年度で回せない大きなプロジェクトを寄附等により実現していく仕組みが行政の業界全体として日本ではできていないところである。これができるようになると少しステージが変わっていくと考えている。
- ・野毛山動物園で実施したクラウドファンディングは、具体的な目的を示して実施したものではなかったが、金沢動物園のクラウドファンディングは、完全にゾウのために使うことを示して始めたものであった。
- ・ズーラシアのテングザルに関する寄附はどのような経緯だったのか。
  - （指定管理者）個人の方から寄附の申し出があり、その際には用途の指定はなかった。申し出を受けて動物園側から提案をした中で金額も考慮し用途を決定した。
- ・動物園から「こういうことをやりたいが、これくらい費用がかかる」ということを示して、それに対して寄附が集まり実現する、という仕組みで出来るようになるともっと積極的に集めていけるようになり集まる金額も変わってくる。
- ・寄附により作られたものについてそれと分かるようなアピールを実施しているか。
  - 寄附者の意向を確認したうえで、園内で名前を掲示させていただいているケースもある。
- ・寄附によりこのようなことができると分かると、私もという方がでてくると思う。
  - （指定管理者）昨年からは3動物園のホームページに、遺贈寄附やアニマルペアレントなども含めて支援いただける内容についても記載をはじめた。
- ・昔の金沢動物園などのように国内にここだけという希少種にこだわって飼育をすることで、継続的な飼育が難しくなってしまった園もあったが、ズーラシアではモウコロバが亡くなり展示動物が不在となった際、同種の継続飼育にこだわるのではなくて似たような動物を選定する姿勢があり安心した。
- ・ズーラシアは園内を歩くととても気持ちのいい場所であると改めて感じた。
- ・野毛山動物園もこじんまりとした中で様々な取組みがあってよい。
- ・過去の動物園では、ゾウがお絵描きをしたりゾウに人が乗ったりということが行われていてそのイメージが強かったが、最近は自然の状態で動物を観察するという視点から飼育されていて変化したと感じた。
- ・自然の状態で見せる工夫を実際に見ることができ、職員が良く考えて飼育していることを感じた。また手作りのものを含めて、来園者が興味をひくように非常にバランスよく考えられ掲示されており、分かりやすい動物園であることが印象的だった。

- 野毛山動物園が親とこどもに非常に優しい場所になったと感じた。あのような授乳設備は古いデパートだとまだないところもある。古い動物園でかつ無料の動物園でありながら、設備を備え清潔に保たれていることに、「はじめての動物園を野毛山動物園で」という思いがあることを感じた。食事処もよいし、そのトイレもすごく清潔に管理されており頑張っていると感じた。
- 野毛山動物園は規模の割に非常に細かい工夫があちらこちらにあり、手間がかかっているという印象である。そして、それぞれの担当者が、費用を抑えながらも頑張っていると感じた。
- ズーラシアは動物のための手間が本当にかかるという印象があり、その手間をしっかりかけていることを改めて確認できた。この大変な状況下でも着実に前に進んでいて、それが今回古賀賞のような大きな受賞にも結び付いている。それぞれの動物園で現場の皆さんが大変努力されていることを確認できた。
- 1年ほど前の日経新聞で、日本で一番種の保存に熱心な動物園というアンケートで確かズーラシアが一番だった記憶があるが、この方針をまげないように今後ともすすめてほしい。

次回は9月21日（水）午後 市庁舎会議室にて事業評価を実施